

安全安心と危機管理のこれから  
『危機と平時』併進時代における市民安全のかたち  
～『レジリエンス』を日本の安全文化として深化させるために～

2016.11.17 レジリエンス学会

公助安全活力



自助安全活力



光と影の安全力学

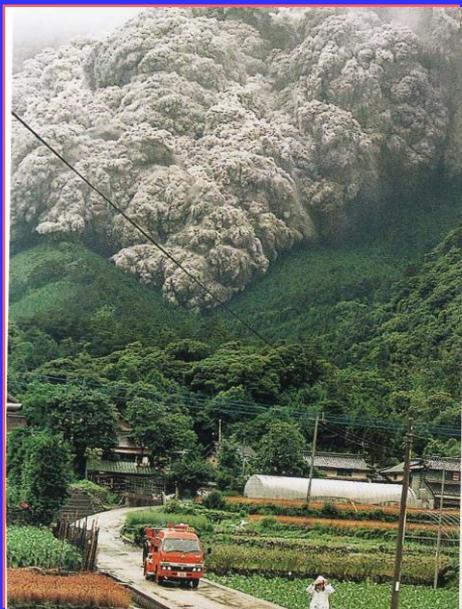


共助・近助  
コミュニティの安全活力

火砕流の脅威

# 自己紹介

普賢岳噴火災害  
H3-14(H6-8)



## 石 附 弘

日本市民安全学会会長

厚木市・豊島区(WHO推奨)セーフコミュニティ専門委員  
国際交通安全学会評議員、交通事故分析センター監事  
前JST RISTEX社会実装統合領域AD、元長崎県警察本部長

安全安心と危機管理のこれから

# 『危機と平時』併進時代における市民安全のかたち

～『レジリエンス』を日本の安全文化として深化させるために～

- 1 『技術』は誰のためにあるのか？
- 2 人間の安全能力 3つの限界
- 3 『危機と平時』の安全空間の拡大
- 4 超高齢社会特有のリスクへの対処
- 5 『危機と平時』併進の社会実装例

安全安心と危機管理のこれから

『危機と平時』併進時代における市民安全のかたち  
～『レジリエンス』を日本の安全文化として深化させるために～

# 1 『技術』は誰のためにあるのか？

公助安全活力

共助・近助  
コミュニティの安全活力

安全  
安心

自助安全活力



光と影の安全力学

博多駅前の道路  
陥没事故。復旧  
のための不眠不  
休の突貫工事

陥没前のもとの  
平穏な生活に戻  
すための関係者  
の懸命の努力

# JR博多駅前の道路陥没事故の復旧作業

## 行政・事業者一体となった日本のレジリエンス能力

- ライフラインの管やケーブルを繋いで、周辺から重機で埋め戻し
- 電話・通信は12日中、ガスは13日までに復旧見通し  
ライフラインの復旧と埋め戻しを同時並行
- 市、12日、予定より1日前倒しでガスの復旧が完了した。電話・通信についても回復作業が続いている
- 市、14日夜遅くには道路通行を再開、全面的な復旧を終える方針
- 市は、車道と歩道の通行再開が可能かどうか、埋め戻しの施工状況など安全性点検のための専門家会議14日昼に開催。大学教授と国土交通省関係者など計6人、市長と県警もオブザーバー参加  
6日で原状復元＝国民の『公』や『事業者』への高い信頼感＝R能力

2011. 3.11の東日本大震災の際にも、啓開(救助・緊急車両通行のための道を開く)作業に、地域の関係事業者が迅速に対応、作業に当たってくれた。(国土交通省東北地方整備局徳山局長講演から)  
・日本の災害回復能力は世界的見ても高い・・・BCP・BCMでさらに深く

# 安全』は『文化』の一形態

埋める技術や工法・同じ水準でも

問題は、何のために、誰のために、

どうやってそれを使うのか？

使う人・社会・国民の価値観・人間観

日本人気質⇨人の命に対する配慮、

思いやり 安全の優先性高い

国民だが……

3・11 遺体発掘⇨手掘り 何回も 丁寧

側溝、屋根裏から発見した事例

・日本人は、悪人でも謝罪し被害を回復

すれば許す(恕) 童話 桃太郎伝説

・落ちた犬は叩け(中国・韓国)

・死んでからも、悪人とわかれば墓を暴き処罰

**生存環境  
の大変化**

**全文を読まれた方？  
基礎資料**

**内閣府**

**首都直下地震の被害想定と対策について  
(最終報告)**

**平成 25 年 12 月**

**中央防災会議**

**首都直下地震対策検討ワーキンググループ**

# 「防災4.0」未来構想プロジェクト

有識者提言

平成28年6月

昨年11月に我が国として初めて「気候変動の影響への適応計画」が閣議決定され、同12月にはCOP21におけるパリ協定が採択された。

- ①「防災1.0」 1959年(昭和34年)の伊勢湾台風
- ②「防災2.0」 1995年(平成7年)の阪神・淡路大震災
- ③「防災3.0」 2011年(平成23年)の東日本大震災

これらの大災害の度ごとに講じられてきた措置を指し、今まさに気候変動がもたらしつつある災害の激甚化に備えるための今般の取組を「防災4.0」と称することとした。

# IPCC第4次評価報告書統合報告書:

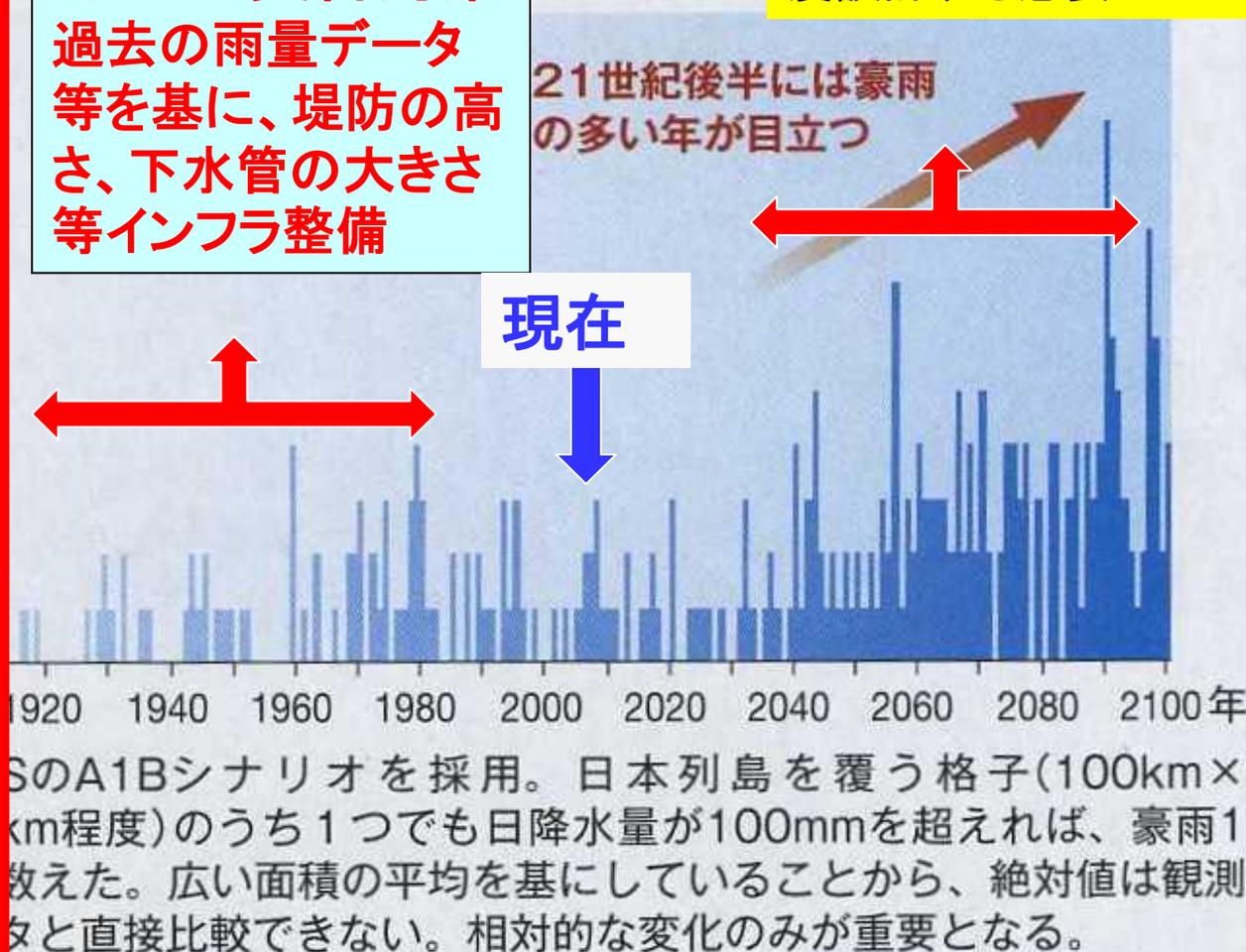
## 気候変動に関する政府間パネル(IPCC)総会(平成19年11月)

### 日本の夏季(6・7・8月)の豪雨日数の変化

これからの災害対策  
= 未来から現在を制  
度設計する必要?

**過去の災害対策**  
過去の雨量データ  
等を基に、堤防の高  
さ、下水管の大きさ  
等インフラ整備

21世紀後半には豪雨  
の多い年が目立つ



- ① 経験則を超えた事態の発生予測
  - ② 予知計測値を基準に設計変更必要
- 山登り・溪流釣り、鉄砲水、地下道、堤防の高さ

**局集中豪雨等自然災害への備え**

記録的大雨(時間当り80ミリ以上)……恐怖感)

マスコミ用語「ゲリラ豪雨」

『危機の初動』に運用するアクションプラン  
最も基本的な「命」を守る行動指針  
目的は“人命保護”



- ・イギリスIMP (Incident Management Plan)
- ・アメリカERP (Emergency Response Plan)
- コンティンジェンシープラン (Contingency Plan)
- 「緊急対応マニュアル」や「初動対応計画」

# 防災・減災の新たなステージ(国土交通省H27.1.20)

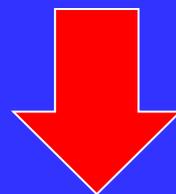
## A エヴァキュエーション

危険な場所からの脱出  
自ら「命を守る行動」

**課題:災害(状況)情報提供**

## 命からがらの避難

- ・待ったなしの事態
- ・自から判断・避難



## B シェルタリング

- ・課題:良き避難民になる教育
- ・地区内ビル、マンション(強固)
- ・基本的にシェルタリング機能あり

**在宅避難**

津波避難タワーと指定(協定)

## 指定避難所・待避所

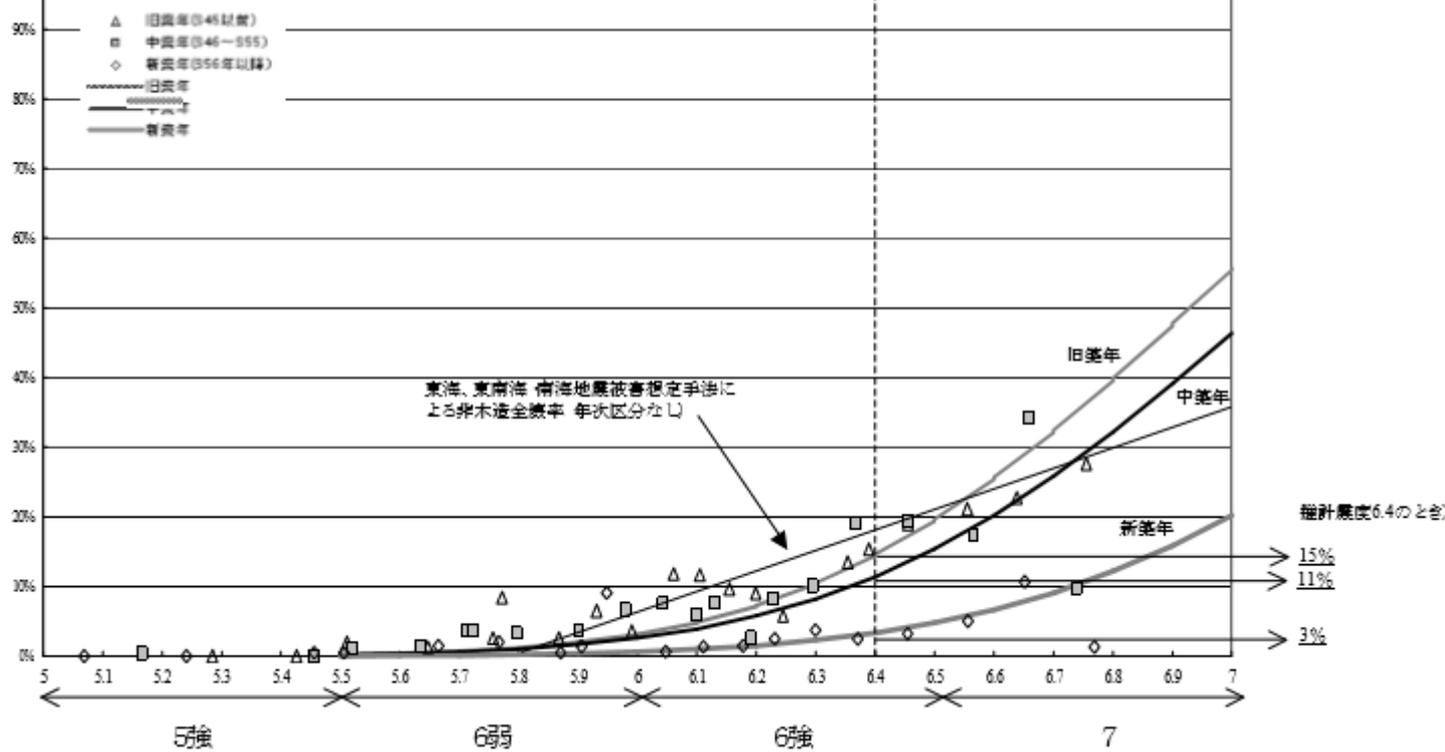
(学校・公共施設等)

- ・「退避行動」
- \* 準備・勧告・命令
- \* 避難経路・何時逃げるか
- \* 避難所の運営・水食糧配布

公助・  
共助化

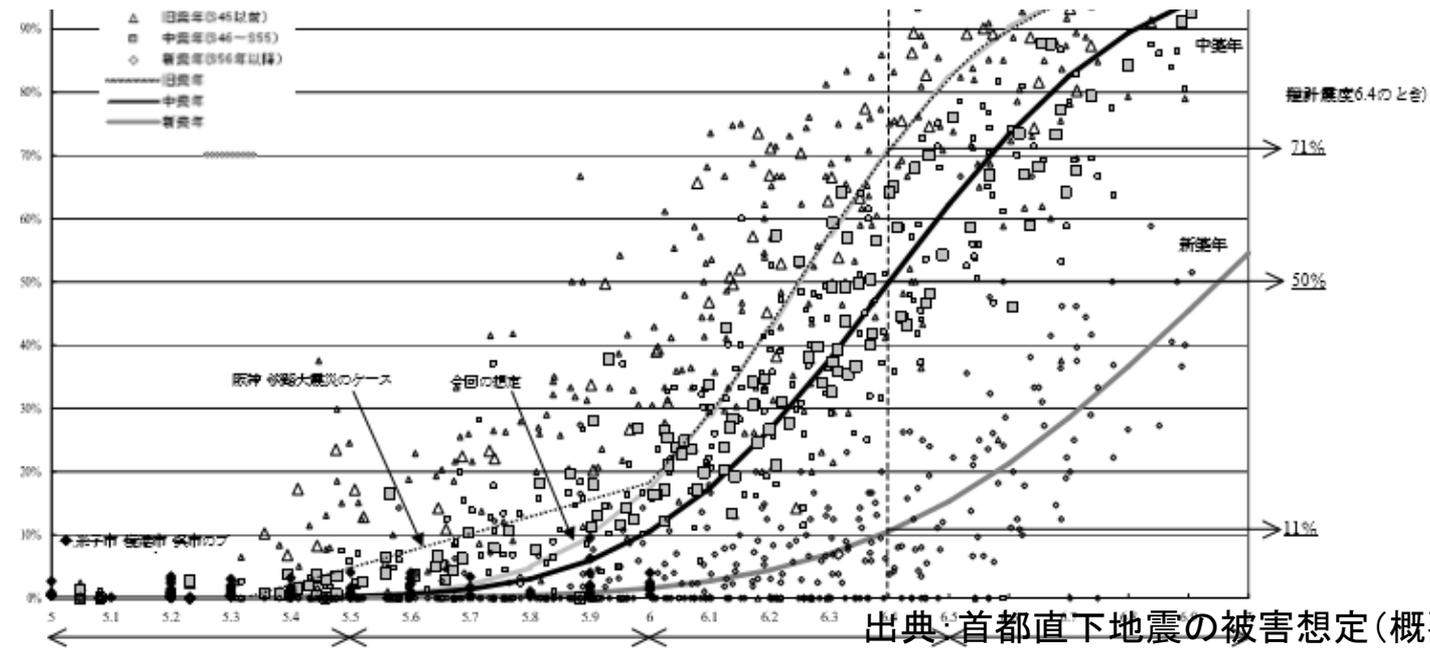
日本:A・B概念区別曖昧(過度の行政依存症の脱却が課題)

# 非木造全壊率



在宅避難が可能であれば  
留まるのが望ましい

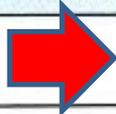
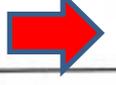
# 木造全壊率



避難所まで経路危険、  
避難所の環境不安

# 大丈夫ですか？ マンション管理組合の大規模災害対応能力

大規模災害への対応をしている管理組合(%)

対応していること	2008年	2013年
災害時の対応マニュアルを作成している	11.8	 18.6
定期的に防災訓練を実施している	33.3	37.7
防災用品を備蓄している	17.2	 26.9
非常食を備蓄している	5.0	8.8
災害時の避難場所を周知している	22.9	25.1
自主防災組織を組織している	—	 19.0
ハザードマップ等、防災・災害対応策に関する情報を収集・周知している	7.8	13.7
高齢者等が入居する住戸を記した防災用名簿を作成している	5.4	 8.3
その他	5.5	3.9
特に何もしていない	 38.9	 29.2

**ガバナンスの有無・質（トップの防災の基本的考え方・体制整備・安全計画・PDCA執行サイクル）がされているのか？**

これからを語る前に、まずやっておくべきこと  
現状認識についての正しい理解

# 現場で何が起きたのか

危機管理対応の留置場

2011.3.11岩手県釜石警察署の事例

**現実起きたことを直視すべし： 防災重要施設の被災は致命傷！**

- ・釜石：地域住民の安全・安心の拠り所であるはずの警察署が津波の被災 ……何故、そこに建てたのか？（地元の声）
- ・阪神淡路大震災：兵庫県警本部が液状化 3日動けず
- ・常総市では市役所や病院の電源不可  
検証報告書 ……何故、洪水対策をしなかったのか？（危機管理？）
- ・熊本地震：市役所が被災、避難所の非構造部分が被災

**1 環境大変化の中で、防災重要施設の場所、電源設置場所等に関し、新たな安全基準や中長期の設計戦略を  
公助の本来の目的・機能が発揮できるようなレジリエンス設計**

**2 地域の防災拠点、周辺の点検（シェルター機能）、電源、防災倉庫の場所はこのままで良いのか、住い方の工夫（被災可能性の高い場所には高齢者以外を優先的に誘導など**

**発災時『フリーハンドを多く持つこと』がレジリエンス力を有効活用  
そのために、日頃から少しずつ環境の再構築につとめる**

安全安心と危機管理のこれから

『危機と平時』併進時代における市民安全のかたち  
～『レジリエンス』を日本の安全文化として深化させるために～

## 2 人間の安全能力3つの限界

公助安全活力

共助・近助  
コミュニティの安全活力

安全  
安心

自助安全活力



光と影の安全力学

人間の  
安全能力限界を  
知る(そもそも人  
が一番危ない)  
①コミュニティの  
意義の再構築  
②レジリエンス  
センスを自・共・  
公3領域で磨く

安全安心と危機管理のこれから

『危機と平時』併進時代における市民安全のかたち  
～『レジリエンス』を日本の安全文化として深化させるために～

### 3 『危機と平時』の安全空間の拡大

公助安全活力

共助・近助  
コミュニティの安全活力

安全  
安心

自助安全活力



光と影の安全力学

同じレジリエンス  
資源でも、意識  
を変えればレジ  
リエンス力を拡  
大可能  
何が本当の問題  
かに気づき、足  
元から対策を始  
めれば……

# これまでの安全教育のやり方 マンション防災事例

ガバナンス力の不足と強化（課題）を提示しても・・・

マンション内の聞き取り調査  
**現状把握**  
 ・マンションは強固  
 ・は必要がない(多)  
 ・私の部屋は大丈  
 ・理事長も理事会  
 ・事務局も関心が  
 ・内で防災を話す  
 ・自主防災組織は  
 ・が低調  
 ・防災に関心はあ  
 ・ら始めれば良い  
 ・防災の技術や訓  
 ・判らない  
 ・良いリーダーがい  
 ・ない  
 \*マンション毎に課題が違う

**これまでの防災対策講演  
 等は、課題についての知識・  
 技術・対応方法の伝授**

**論点整理 必要**

災害	私たちに突き付けられた現実
----	---------------

東日本大地震  
 の教訓 東北  
 2011.3.11  
 (地震・津波複合型)

- ・地震・津波(水)の恐怖
- ・停電・ガス・水道・電気・エレベーター等停止 基本施設の操作不詳
- ・午後2時過ぎの発災—理事長や幹部不在 いる人だけで対応
- ・夜間、自家発電マンションに近隣の住民が避難してきた

同 浦安市  
 の教訓  
 (液状化被害)

- ・広範囲の液状化の恐怖
- ・マンションは強固。しかし、排水、水道、電気等生活インフラが破壊 長期の避難所生活を強いられた

熊本地震の  
 教訓 2016.4  
 (活断層 直下型)

- ・余震の恐怖—不安感 野外・車泊
- ・救援物資入手に苦慮
- ・マンションコミュニティがしっかりしたところは、すぐに修繕計画を決めることができた。
- ・避難者の連絡先不明で、総会が開けないところもあった

どう自分の  
 問題として受け止めるか？

# マンション防災事例:

## ガバナンス力の強化の課題

### マンション内の聞こえない声:

#### 現状把握と課題

- ・マンションは強固だから防災は必要がない(多数)
- ・私の部屋は大丈夫だと無関心
- ・理事長も理事会、管理組合事務局も関心が薄い
- ・内で防災を話す場がない
- ・自主防災組織はあるが、活動が低調
- ・防災に関心はあっても、どこから始めれば良いかわからない
- ・防災の技術や訓練の仕方が判らない
- ・良いリーダーがいない

**\*マンション毎に課題が違う**

**論点整理 必要**

### 災害

### 私たちに突き付けられた現実

東日本大地震  
の教訓 東北  
2011.3.11  
(地震・津波複

- ・地震・津波(水)の恐怖
- ・停電・ガス・水道・電気・エレベーター等停止、基本施設の操作不詳

長や  
対応  
近隣

**本当の課題は、  
ここをどうする  
かの具体的・  
実践的方法論**

向陽安  
の教訓  
(液状化被害)

非水、  
が破壊  
られた

熊本地震の  
教訓 2016.4  
(活断層 直下型)

- ・余震の恐怖—不安感 野外・車泊
- ・救援物資入手に苦慮
- ・マンションコミュニティがしっかりしたところは、すぐに修繕計画を決めることができた。
- ・避難者の連絡先不明で、総会が開けないところもあった

どう自分の  
問題として受  
け止めるか?

# 釜石市防災課長：このままでは大変なことになる！

- 1 防波堤等施設への過剰依存心 **ハードへの依存心**
- 2 ハザードマップでは 津波は来ない **思い込み**
- 3 津波情報まで避難しない **避難行動の遅れ**
- 4 自分だけは大丈夫 **正常化の偏見**
- 5 自主防災組織率も低い **共助安全活力の欠如**
- 6 防災講演に来るのは常連だけ  
**地域コミュニティ全体の防災力の低下**
- 7 教員の防災知識不足 **内陸部の先生の意識や知識の低さ**
- 8 津波教材の不足 **教育現場の指導能力や教材の不足**

石巻も釜石も同じ津波常襲地域、同じ危機要因があった  
釜石は、H16から防災意識の風化を「危機」として気付き、  
市関係者が、研究者と協働で改善に真剣に取り組む

# 避難3原則

- ① 想定にとらわれるな！
- ② 状況に応じ最善を尽くせ！
- ③ 率先し避難せよ！

(石附コメント)  
環境対応  
最適行動  
自律的判断

## =小1にもわかる簡潔・重要項目

### 小中学校合同避難訓練（鶯住居小学校・釜石東中学校）

両校は、海岸近くの津波による浸水を受ける可能性の高い場所に併設しているため、いざというときには学外への避難が必要になり、全員が避難することのできる高台はないため、離れた場所まで避難しなければなりません。しかもその避難経路は1本しかなく、その車が通行しているなか、小中学生全員が避難した場合には、混乱することが予想されました。

そこで小中学校が合同で避難訓練を定期的実施しています。このように合同で実施することで、小中学生が入り交じった状態で避難するかどうかを確認するとともに、小学校低学年の児童の避難を中学生が手助けする、という避難支援方法も確認しています。これは『一人ひとりに対して』という理念に基づいた活動の一つです。



学校から高台の避難場所まで駆け上がる



低学年やけが人の避難をリヤカーで支援



小中学生全員で点呼

## 出口論

学校BCP  
モデル  
計画・  
教育・  
訓練の  
セット

# 「釜石の奇跡」＝「プロセスの奇跡」

## 1 潜在危機を「危機」として認識

実態把握・関係者の真剣な取り組み

## 2 情報共有 (ネットワーク:安全対策の入り口)

行政・研究者・教育委員会・学校現場・児童・地域

## 3 行動共有 体験学習・合同訓練

## 4 安全意識の個別化 中学生でも！

ひとり一人の「命の危機管理」 内発的自律型安全

コミュニティの「危機管理」型安全プロセスモデル

公助・共助・自助のレジリエンス力協働・融合へ

スキル、態度、知識

# 氷山モデルからの発想

人（他者）とは何か、  
自分とは何か

何故、安全意識は浸透しないのか？  
何故、学習効果が低いのか  
何故、まちの人は、ボランティア活  
動に参加してくれないのか？

何故、事件事故は起きるのか  
何故、部下は上司の言うことを理解  
できないのか？

成果が上がっている人・組織・  
まちと、そうでないところは、ど  
こが違うのか？

本当の課題は、見えない  
氷山の下の部分

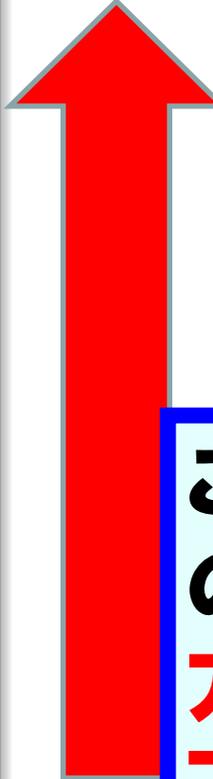
**レジリエンス**  
**持続性ある成長**  
**メカニズム:**  
**冰山モデル**

これまでの  
 の安全対策

見える部分  
 KSAの不足補強

これからの時代  
 アイス  
 ブレーク

見えない部分  
 ・相手方との信頼  
 ・意味・価値共感  
 ・新たな安全価値  
 の創造(思い、志)



災害	私たちに突き付けられた現実
東日本大地震の教訓 東北 2011.3.11 (地震・津波複合型)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震・津波(水)の恐怖</li> <li>停電・ガス・水道・電気・エレベーター等停止 基本施設の操作不詳</li> <li>午後2時過ぎの発災一理事長や幹部不在 いる人だけで対応</li> <li>夜間、自家発電マンションに近隣の住民が避難してきた</li> </ul>
同 浦安市の教訓 (液状化被害)	<ul style="list-style-type: none"> <li>広範囲の液状化の恐怖</li> <li>マンションは強固、しかし、排水、水道、電気等生活インフラが破壊</li> <li>長期の避難所生活を強いられた</li> </ul>
熊本地震の教訓 2016.4 (活断層 直下型)	<ul style="list-style-type: none"> <li>余震の恐怖不安感 野外・車泊</li> <li>救援物資入手に苦慮</li> <li>マンションコミュニティがしっかりしたところは、すぐに修繕計画を決めることができた。</li> <li>避難者の連絡先不明で、総会が開けないところもあった</li> </ul>

知識・技術・対応方法 KSA  
 これまでの防災講演等  
 何が違う  
 要

参考: EUの職業ドライバー交通安全教育もこの考え方に変わった

安全安心と危機管理のこれから

『危機と平時』併進時代における市民安全のかたち  
～『レジリエンス』を日本の安全文化として深化させるために～

## 4 超高齢社会特有のリスクへの対処

公助安全活力

共助・近助  
コミュニティの安全活力

安全  
安心

自助安全活力



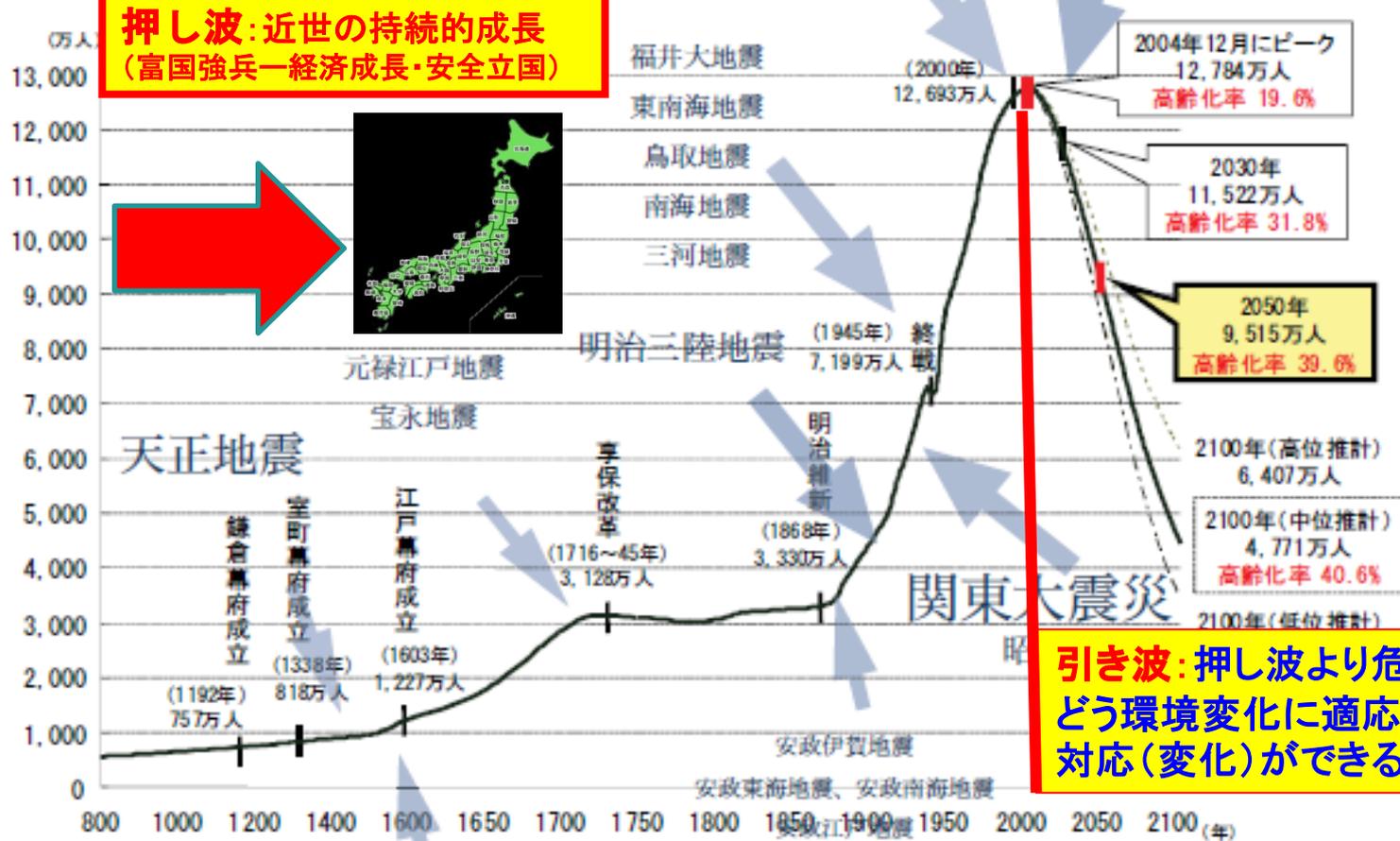
光と影の安全力学

- ✦ 社会基盤の弱体化:生活単位が核家族から単独世帯へ、家族や地域の絆の希薄化
- ✦ 社会の構成員の質の変化
- ✦ これまでの安全対策が通用しない

【図 I-1】我が国の人口は長期的には急減する局面に

2011.3.11

○日本の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前(明治時代後半)の水準に戻っていく。この変化は千年単位でみても類を見ない、極めて急激な減少。



**引き波: 押し波より危険**  
どう環境変化に適應した  
対応(変化)ができるか

高橋紘士高齢者住宅財団理事長、国際医療福祉大学大学院医療福祉学分野教授(RI-STEX)コミュニティで創る高齢社会のデザイン研究領域アドバイザー作成資料から引用……加工石附

(出典)総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

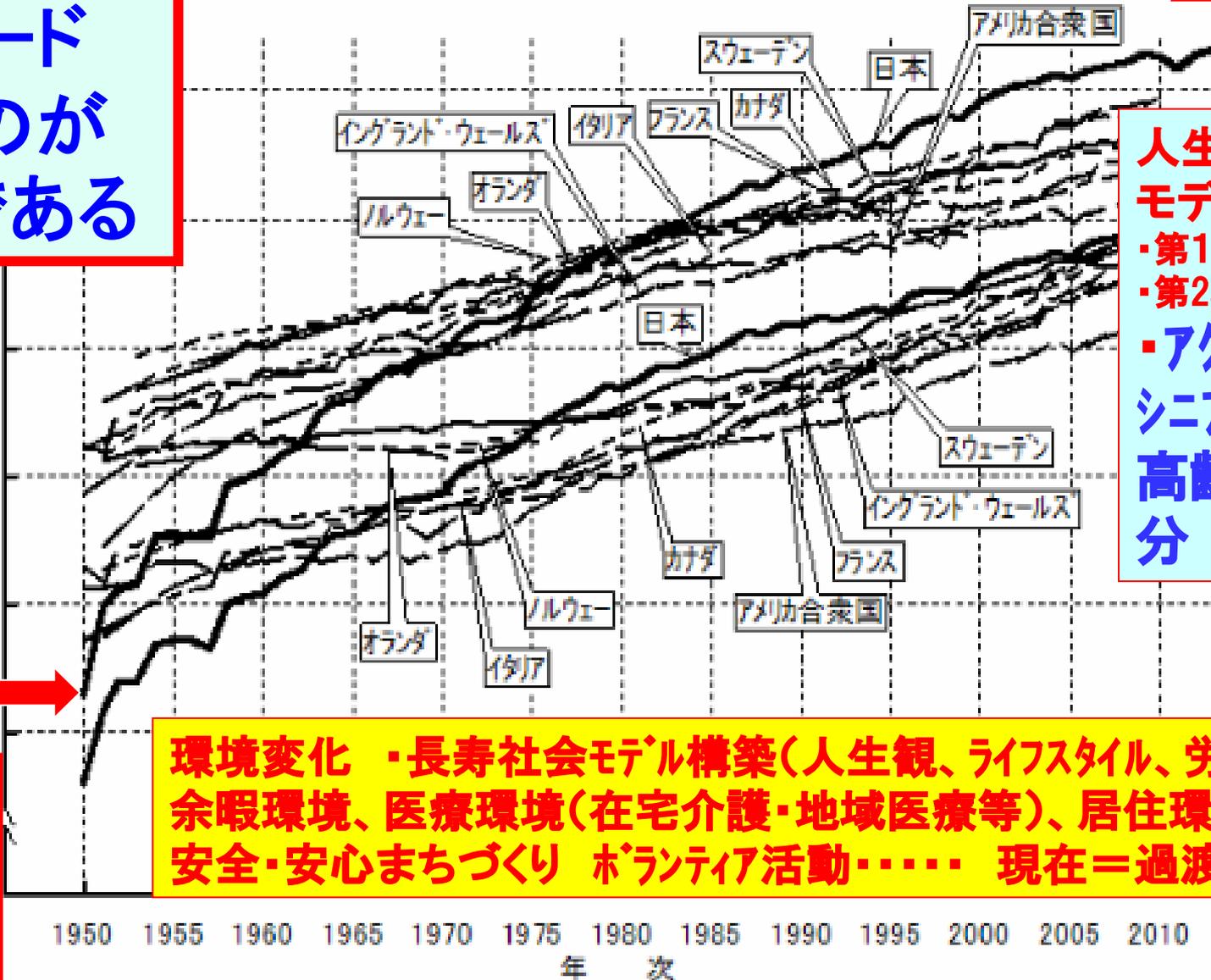
日本

図5-3 主要国の平均寿命：1950年～最新年次

高齢化率の  
超スピード  
そのものが  
リスクである

高齢者対策の行方に関心  
○はじめ先進国は、日本

人生80年  
モデル  
・第1現役  
・第2現役  
・アクティブ  
シニア  
高齢4区分



環境変化 ・長寿社会モデル構築(人生観、ライフスタイル、労働・余暇環境、医療環境(在宅介護・地域医療等)、居住環境、安全・安心まちづくり ボランティア活動…… 現在=過渡期

人生50年  
モデル  
現役・老後  
2分時代

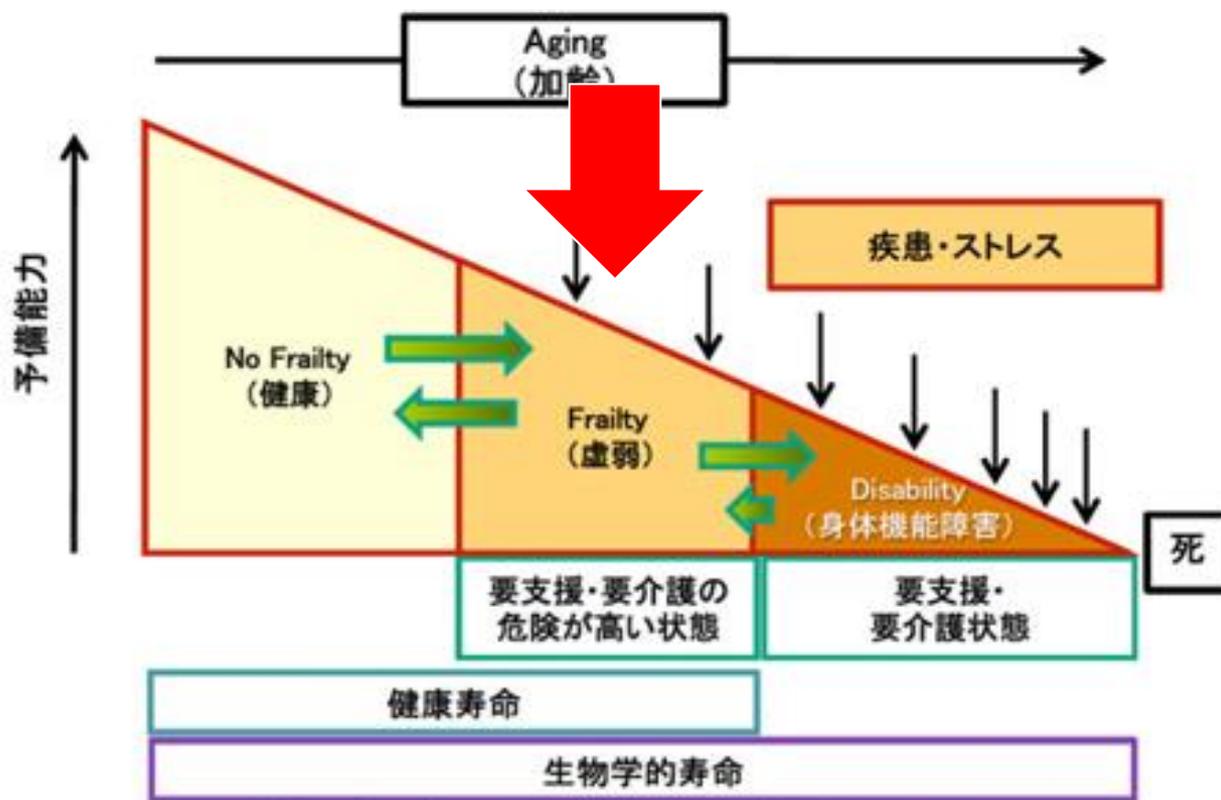
UN, Demographic Yearbook による。日本は、厚生労働省統計情報部『完全生命表』『簡易生命表』による。

# 「虚弱(フレイル)から要支援—要介護」層が急増

2014年6月、日本老年医学会は、医療介護に携わる専門職に

「フレイル」の理解と予防に取り組むことを提唱。社会的取組み必要

社会全体の脆弱性を高める。例えば、2030年には、75歳以上の後期高齢者が、2,266万人(現在より約1,000万人増)となり、この内1割が認知症、4割が一人暮らしと予測(構造的特質)



出典：長寿医療研究センター病院レター 第49号

虚弱(フレイル)の評価を診療の中に

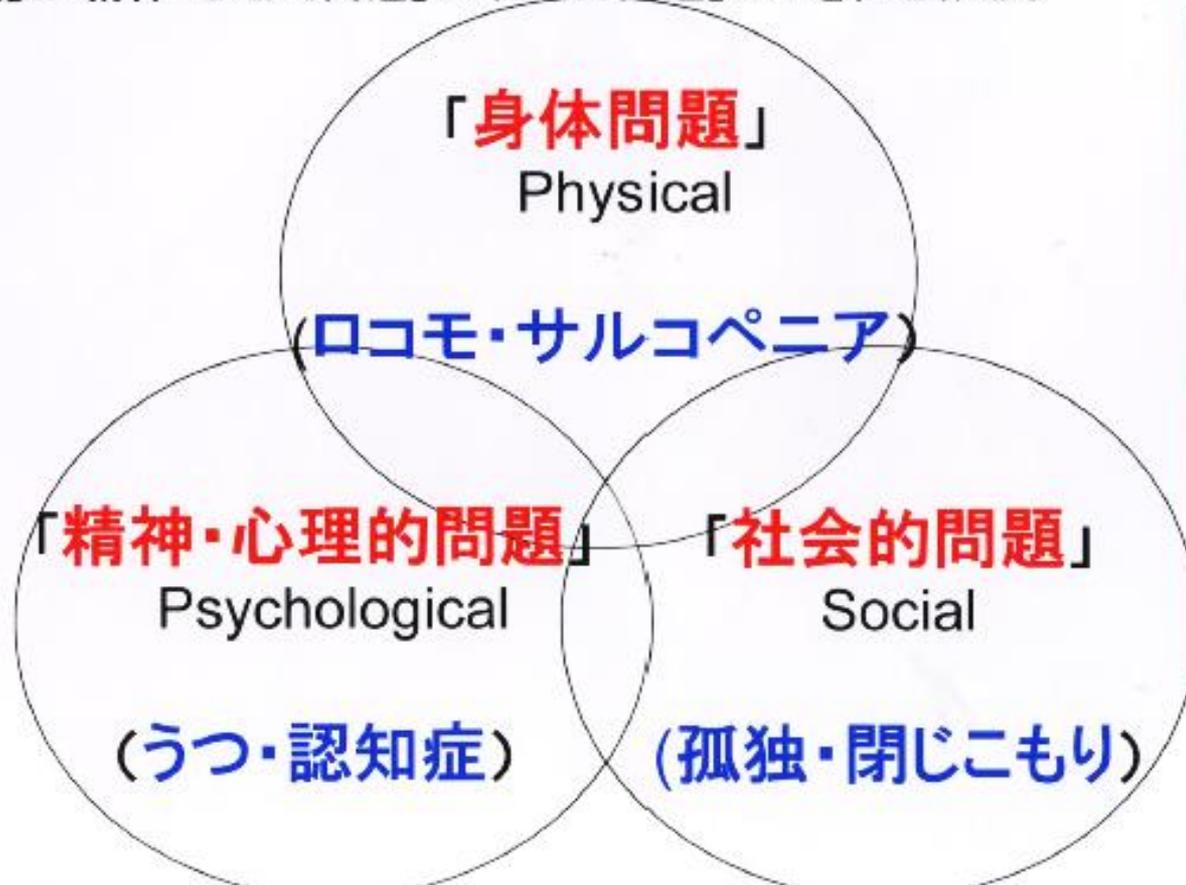
<http://www.ncgg.go.jp/hospital/pdf/news/Hospitalletter49.pdf>

この領域でも『レジリエンス』センスとその力量が期待されている  
医療費、防災力、交通事故抑止、犯罪被害抑止、  
……高齢者本人の幸せのために

・「フレイル」の特徴は、多次元に渡っていること。これまで個別に取り上げてこられていた「身体的問題」と「精神・心理的問題」と「社会的問題」全てを含む概念。

## Frail

身体的に  
精神的に  
また、  
社会的に  
虚弱な  
状態



## 石附メモ

病気や不慮の事故  
予防には  
3つの  
総合管理  
が重要

WHOの3つの健康論

## H20 関東管区内における過去5年間の高齢者事案の推移(吉田論)

【犯罪関係】・刑法犯検挙件人員 高齢は倍増、粗暴犯34%増(高齢者3、8.倍)

・**殺人事件** 全体ではH15~19(5年)間に21%減少、高齢被害者は横這い、加害者の74%が息子等親族で、動機は、精神障害、介護疲れ 老々介護、認(認知症)々介護に絡むものが多い。

・**暴行傷害等粗暴犯、万引き** 高齢者増加 「切れる老人」化

・**高齢者虐待** 被害高齢者の8割が女性 75歳以上が半数、加害者の半数が息子、その7割が身体的虐待

・**オレオレ詐欺被害** 還付金詐欺 被害者の7-8割は高齢者

【交通事故】1当12.9%、死亡事故15.6%と多くなっている。

【**変死体・独居老人等**】・変死体の取り扱い H15~19年17%増加

高齢者変死体は30%増、・**独居高齢者の孤独死**36%増加

・**自殺**(千葉を除く) H19 8036人 高齢者 2082人 25,9%

・**自然災害時の高齢者被害:**

・**山岳遭難** 総数590人内高齢者150人25.4%(全国34.3%)

・**雪害** 総数126人中高齢者55人43.7%(全国41,6%)

・**住宅火災** 死者H20 1123人(内高齢者710人6割)

安全安心と危機管理のこれから

『危機と平時』併進時代における市民安全のかたち  
～『レジリエンス』を日本の安全文化として深化させるために～

## 5 『危機と平時』併進の社会実装例

公助安全活力

共助・近助  
コミュニティの安全活力

安全  
安心

自助安全活力



社会実装の事例  
・ランドアバウト

光と影の安全力学

# 現在からの発想＝まちづくりデザイン3

リスクマネジメントとクライシスマネジメントの一体的対応

## 「平時と危機」両用の発想

2014.5 既存の信号機撤去し  
ラウンドアバウトを設置（飯田市）

2013.6 道交法の改正

# ラウンドアバウトの特性

飯田市資料から引用

**安全性** 速度の抑制による効果 ⇒ 重大事故を抑制

**円滑性** 信号による停止の解消 ⇒ 無駄な待ち時間の解消  
多枝交差点の制御も可能

**環境性** 無駄な待ち時間の解消 ⇒ CO<sub>2</sub>の削減  
信号制御の電力消費不要

**経済性** 信号機の設置費・維持管理費等の削減

**自立性** 災害時や停電時にも ⇒ 災害に強い  
自立（自律）性を発揮

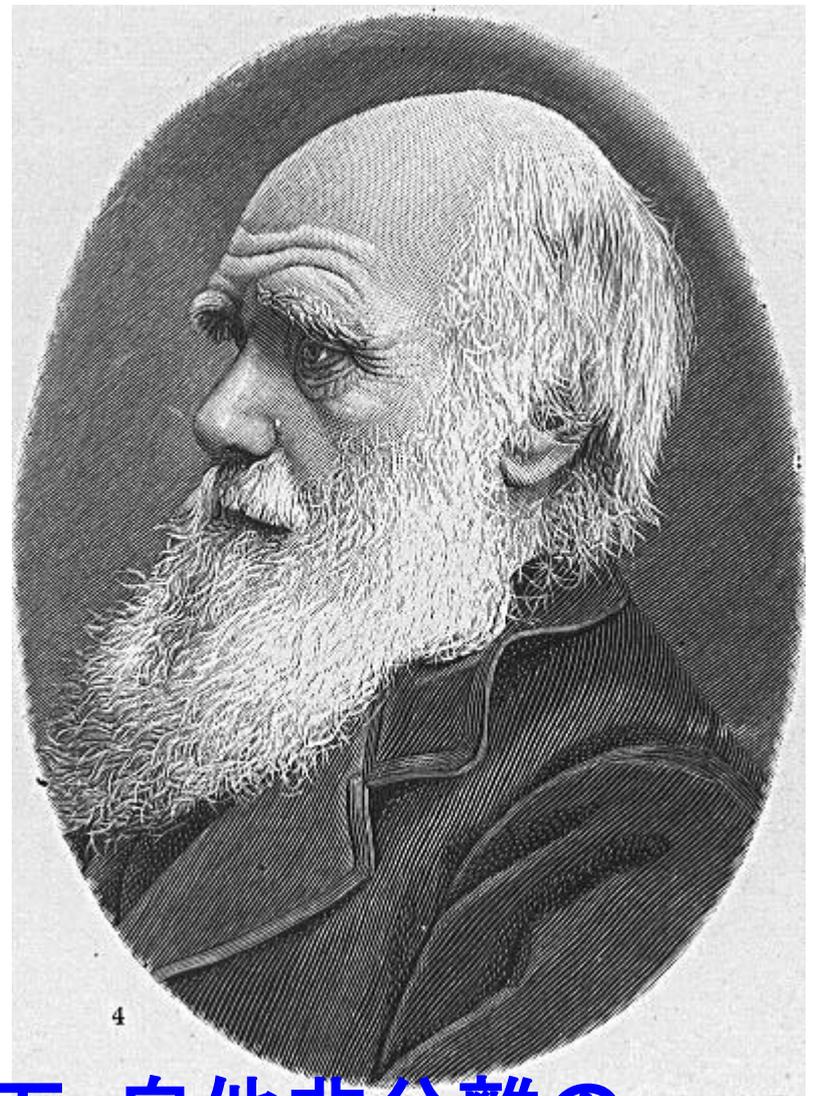
交通事故・環境・経済・災害など  
複数リスクの同時軽減

自律的サステイナブルな交通秩序の維持

- 交差点状況に応じて、交通適用容量が決定される

**「生き残るのは最も強いものでも、最も賢いものでもなく、最も環境に適応したものである」**

チャールズ・ロバート・ダーウィン  
Charles Robert Darwin, 1809年2月12日  
- 1882年4月19日）、イギリスの自然科学者  
。卓越した地質学者・生物学者で、種の形成理論を構築



**環境変化という無限定条件下・自他非分離の「適応律」の方法論、特に、環境調和型・自律的な新しい社会安全システムの構築が急務（石附）**

理念・可能的未来への挑戦 2013.12  
**世界一安全な国の創造 私論**

これまで  
1人1役

行政・警察・地域住民の三位一体の取組み  
=大きな成果（安全） 安心はこれから  
「防犯」から「まちづくり」を考えた時代  
個別課題から全体を考えた時代

生存・  
生活  
環境の  
大変化

まちの安全・安心をめぐる環境の大変化

1 新型犯罪や事件事故が発生リスク

・ ネット犯罪・有害情報・危険ドラッグ

2 超少子・超超高齢化に伴う諸課題

・ 地域担い手の変化、新たなデザイン

3 巨大地震等自然災害に短中期的備え

4 予防安全への高いニーズ

5 安全社会+安心社会 2つのニーズ

これから  
1人3役

環境変化に適応したコミュニティづくり=  
安全・安心を実感できる住み続けたい魅力  
ある創造的まちづくり 全体から一個別課題  
「まちづくり」から「防犯」を考える時代

# われわれの出口 様々な領域での超学際的 レジリエンスセンスの涵養と 力量強化への挑戦

安全センスは  
学べば身につ  
けることができる  
—交通危険学  
独ムンシュ博士



不慮の事件事故は  
予防できる

コミュニティレベル  
での科学的根拠あ  
る具体的推進プロ  
グラム:

WHO推奨セーフコ  
ミュニティ(世界  
370余、日本14自  
治体国際認証)

2013年8月17日 17:43:21



*Design  
Your  
Page*

さあデザイン  
してください  
皆さんの  
ページを！